

平成 28 年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月8日実施)	総合評価(3月31日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	①社会で活用できる基礎・基本的な学力の定着と、他者と関わるための力の習得を目指し、きめ細やかな学習指導を行う。 ②育てたい生徒像の実現に向けた教育課程の再編成を行う。	①1学年の科目を中心に、生徒の学習課題を把握し、効果的な指導方法や教材を研究する。	①1学年の授業を複数教員体制で実施し、生徒の状況把握と指導方法や教材の研究を行う。また、TTや小集団学習を積極的に実施する。	①1学年の教材について改善が図られたか。 ②TTや小集団学習について、計画の立案や実施後の検証を行ったか。	①授業を複数教員体制で実施し、互いに相談しながら1学年の教材について学習内容のレベルアップや個別の進度に合わせた教材の作成を行った。 ②TTや小集団学習などを行うことによって昨年度より多くアクティブラーニングが展開できた。	①学び直しの授業については一定程度学習内容をレベルアップできたが、課題として、各教科の授業の効果的な指導方法や教材の工夫の検証が不十分であった。方策として各教科で取り組んだことを共有する機会を設ける。 ②綿密な計画を立案できなかった。年間指導計画を充実させ、実践者による報告研修会を行う。	①学び直しの授業の教材については改善が図られている。定時制全体の人数減が心配な反面、少人数でのきめ細やかな指導が行われている。 ②TTの大幅な導入により教育課程を再編し、アクティブラーニングを一定程度展開できた。また教員同士の授業改善も進んだ。	①1学年の教材について改善が図られた。一方、各教科の授業の効果的な指導方法や教材の工夫の検証が不十分であった。 ②TTや小集団学習によりアクティブラーニングが展開できた。しかし、教員の指導方法が依然として知識伝達型学習への意識改革が必要。また、TT導入は準備期間が足りず綿密な計画を立案できなかった。	①授業改善研修会で各教科の授業の効果的な指導方法や教材の工夫の検証を行う。 ②TTや小集団学習をベースに、教員の指導方法において課題解決型学習を増やすことについて研究する。各教科で取り組んだことを共有する機会を設けるとともに、年間指導計画を充実させ、実践者による報告研修会を行う。
2 生徒指導・支援	①モラル・マナー・ルールを遵守する心を育成し、高校生として良識ある行動ができるように、規範意識と生活習慣を身につけさせる。 ②生徒が安心して活動できるための支援体制の充実を図るとともに、コミュニケーション力を育成する。	①教職員間で指導方針の共有を図り、足並みの揃った指導を行う。 ②SC及びSSWを活用した支援体制の構築を図る。	①新着任者・非常勤講師との指導方針の共有を徹底し、巡回・集会を効果的に活用する。 ②SC、SSW拠点校として、相談体制のあり方を検討する。	①指導方針の共有のための工夫を行い、全教職員が共通した指導を行えたか。 ②SC、SSWを活用したケース会議や相談を、平成27年度より多く実施できたか。	①集会や授業において人の話を傾聴する姿勢や携帯電話の使用マナー等、非常勤講師の協力も得ながら、全教職員が共通認識を持って指導を行うことができた。 ②ケース会議については、前年度と比較し、ほぼ同数の実施ではあったが、SSWを交えた会議・相談の機会が増えた。	①マナーの向上は見られたが、引き続き、生徒の規範意識の向上に向けて、全教職員が共通認識のもと粘り強く日常的に取り組んでいく必要がある。あわせて、授業遅刻についても改善に向けて取り組みをしていく。 ②職員へのコンサルテーション、ケース会議への出席、職員対象の研修といったSSWのより効果的な活用について、教育相談COを中心とした明確な仕組みづくりを検討していく。	①生徒のマナーが良くなってきたことが感じられる。授業中の携帯電話の使用などが、いまだに一部の生徒に見られるものの、かなり減ってきたと言える。	①生徒の授業を受ける姿勢、態度が良くなってきたことは成果である。一方で、授業の開始など、時間を守れない生徒に対する指導が必要である。	①担任や一部の教員に依存するのではなく、職員会議などでコンセンサスを図り、職員が一丸となって生徒指導を行っている。
3 進路指導・支援	生徒一人ひとりが将来設計を考え、進路決定できる力を育成するとともに、進路実現を可能とするために、計画的かつ系統的な指導・支援体制の充実を図る。	本校に必要なキャリア教育を教職員全体で考え、新しいキャリア教育実践プログラムを策定する。	総合的な学習の時間やLHR、NPOとの協働事業を活用したキャリアプログラムを検討する。	総合的な学習の時間やLHRにおいて、キャリアプログラムを実施できたか。NPOとの協働事業で新規のキャリアプログラムを導入できたか。	総合的な学習の時間においては、従来の探究活動に加えて、1年では「自己理解と学校適応」、2年では「働くことと職業適応」、3年では「卒業後の進路について」、4年では「自己実現に向けて」といった内容で、学年に応じたキャリアプログラムを月1回のペースで導入、実施することができた。また、2学期末にはNPO法人(Me-net)との協働による大学生サポーターを活用したキャリアワークショップを新たな試みとして導入、実施した。	総合的な学習の時間におけるキャリアプログラムについては、今年度の実施内容を精査し、4学年を通じた方向性を明確にするとともに、質、頻度ともに上げていきたい。また、LHRの活用はあまりできず、ワークショップについては、今年度は試行的に単発での実施となったが、次年度においては年度当初より計画的に企画、実施し、生徒の進路に対する意識づけを図る。	2学期末に実施された、大学生が4年生徒にインタビューする形式のキャリアワークショップはなかなかおもしろい試みである。	生徒の反応は「良かった」から「良くなかった」まで様々であった。キャリア意識の啓発という点では工夫の余地がある。	Me-net や大学生だけでなく、地域などの多方面の人材を活用することも検討し、キャリアプログラムをより一層実践し、生徒に働くことの価値について実体験の中で学ばせていく必要がある。
4 地域等との協働	学校からの情報発信を積極的に行うとともに、家庭・地域社会との連携や交流を推進し、地域に愛される学校づくりを推進する。	これまでの地域との連携や交流を継続・発展させ、積極的に広報するとともに、新しい地域との連携について追求する。	例年の地域との連携・交流への生徒への参加を積極的に勧めるとともに、新たな体験やインターンシップまたは地域貢献などの開拓を行う。	地域との新しい連携・交流を開拓できたか。ホームページやその他の手段より積極的に情報発信できたか。	新たに、夏期校外学習では地域の寺院で座禅体験を行い、体験型の交流を図った。また、地域自治会の防災訓練に生徒と教員が参加し、本校の避難訓練におけるDIGの際には地域の方々に参加していただき、学校周辺の施設等について教えていただいた。ホームページは写真による情報を増やし、更新頻度も1.5倍程度に増加した。インターンシップは津久井商工会議所と連携し、学校独自のインターンシップ先を開拓し、生徒が参加した。	地域との交流に参加する生徒が少なく、固定化する傾向がある。より多くの生徒が参加できるように年度初めから宣伝活動を行う。インターンシップは参加者が少なく、最後までやり遂げられない生徒もいた。今後は、事前指導や教員の巡回などの指導体制を確立させるとともに、生徒が参加しやすい形態を追求していく。またその取組をキャリア教育の中に位置づける。	津久井中央小学校の児童と落花生の収穫体験を通して交流を深めることができた。宿泊防災訓練の実施は地域との新しい連携・交流の開拓だけでなく、地域の高等学校の訓練のモデルケースにもなり評価できる。また、生徒から必要との声があるので継続する。また、ホームページその他の手法で積極的に情報発信していた。	地域との協働・協業を行うことで、自己肯定感を醸成することができた。また、生徒が参加しやすい形態を追求していく。また、その取組をキャリア教育の中に位置づけていく。	事前指導や教員の巡回などの指導体制を確立させるとともに、生徒が参加しやすい形態を追求していく。また、その取組をキャリア教育の中に位置づけていく。
5 学校管理 学校運営	①事故・不祥事の防止を徹底するとともに、防災意識を高め、安全教育を推進する。 ②いのちを大切にすする心、いじめを許さない心を育む教育を推進する。	①夜間定時制としての防災体制の改善を図る。 ②「共生・いのち・生きる」の新しい実施方法や内容を研究・実践する。	①夜間における災害発生に備えた体制作りや訓練を行う。 ②「共生・いのち・生きる」と教科の内容との関連付けを図る。	①新しい防災の取組が実施できたか。 ②授業において「共生・いのち・生きる」を実施することができたか。	①7月に1学年生徒を対象に宿泊をともなう避難訓練を実施した。簡易トイレ・ベッドの組み立てやDIG、非常食による炊き出し等、職員、生徒がともに体験することで効果的な訓練となった。 ②総合的な学習の時間の中で年間を通じて、計画的に6回実施することができた。また、国語総合、現代文、世界史、倫理といった科目においても、生徒に対していのちや人権等について考えさせる機会をつくることができた。	①今年度はほぼ手探り状態で、かつ準備が不十分の中での実施となった。実施内容を精査することで、効率的な職員体制や当日のライフラインの設定の見直しなど、全日制との協力体制を含めて、一層の改善に向けて検討していく。 ②生徒の意識向上を図るために、総合的な学習の時間においては、内容的に新しいテーマを取り入れるなどマンネリ化を防ぐ工夫をしていくとともに、LHR等を十分に活用して生徒がお互いにコミュニケーションを取り合う機会をつくるなどし、人を大切にする心の育成につなげていきたい。	①宿泊避難訓練を実施できたことは意義深い。実践のモデルとして、他校の取り組みに影響を与えた。	①生徒から必要との声があったことは成果である。DIGの実践は効果的であったので、来年度も続けたい。一方で、今年度は、準備期間が十分にとれなかったことが反省である。また、一部の職員に負担が偏重してしまったことは改善に向けての課題である。	①4月早々から準備期間を十分にとり、役割分担を明確にするなど職員体制を見直していくとともに、全日制職員及び地域との連携・協力体制を構築する。また、備蓄品についても日常の管理を怠らないことで、災害発生時に機能するように準備をする。